

唐詩新攷

森瀨 壽三 著

関西大学出版部

森瀬壽三著

唐詩新攷

関西大学出版部

題字：岡村 繁 九州大学名誉教授

【本書は関西大学研究成果出版補助金規程による刊行】

秦王破陣樂 唐朝

四人舞



「秦王破陣樂」

明治三十八年吉川弘文館発行『舞樂圖』（故實叢書第三輯第十八回）所載。この書は、文政六年刊同十一年着色の源千春の原本を復刻したものである。江戸期までは「秦王破陣樂」が我が国で伝承されていたものらしい。大食調に分類されている。この画像は、李賀「雁門太守行」を彷彿とさせる。（本書第三章第一節第二節第三節参照）

孫逖

三見

同洛陽李少府觀永樂公主入蕃

邊地鶯花少年來未覺新美人天上落龍塞始應春

李白

六見

靜夜思

樂府

牀前明月光疑是地上霜舉頭望明月低頭思故鄉

舉頭低頭寫出
脚躑躅之意

劉會孟曰自是古意不須言笑
范德機曰五言
短古不可明白說盡含糊則有餘味如此篇是也
又步出城東門悵望江南路前日風雪中故人從
此去門簾見新日便即下堦拜細語人不聞北風

図版1 李攀龍編選蔣一葵箋釋『唐詩選』明萬曆四一年刊本（關西大學総合圖書館内藤文庫所蔵）における李白「靜夜思」。（本書66・291頁参照）

唐詩選卷之一

濟南李攀龍選訂

太原王穉登參評

五言古

魏徵

述懷

中原還逐鹿。投筆事戎軒。縱橫計不就。慷慨志猶存。策杖謁天子。驅馬出關門。請纓繫南越。憑

大雅之音

五言古

卷一

圖版2 李攀龍選定王穉登參評「唐詩選」萬曆閔氏刊朱墨套印本（復旦大學圖書館特藏室所藏）。（本書282頁參照）

目次

序章	1
第一章 初唐詩研究	
第一節 陳子昂「薊丘覽古」について	6
第二節 「先天應令」考	27
第二章 盛唐詩研究	
第一節 李白「靜夜思」の構造	44
第二節 李白「靜夜思」本文の異同	59
第三節 杜甫の立場	77
第四節 杜甫「登高」詩の問題点	98
第三章 中唐詩研究	
第一節 李賀「秦王飲酒」考	118

第二節	李賀「秦王飲酒」再論	132
第三節	李賀詩の道教的側面	153
第四節	李賀古里考	183
第四章 晚唐詩研究		
第一節	李商隱の首句「萬里風波一葉舟」無題詩について	198
第二節	李商隱の無題詩の性格	215
附論		
第一節	樂府文学の本質について	236
第二節	雑詩の性格について	252
第三節	『唐詩選』藍本考	275
結語		297